



都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業

企業や大学、若者支援に関する専門的知識や経験を有するNPO等の支援団体と連携し、都立高校生が社会や職業について、実感を持って理解しながら、将来社会人・職業人として生活していくために必要な能力等を身に付けることができる教育プログラムを実施しています。

平成25年度から開始した「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」(以下「自立支援教育プログラム事業」という。)は、今年度で4年目となり、60を超える支援団体の協力を得て、多くの都立高校で活用されています。



企業・NPO等と連携したキャリア教育の推進を目指して

東京都教育委員会は、平成28年2月に「都立高校改革推進計画・新実施計画」を策定しました。これは、教育基本法の理念を踏まえ、都立高校が生徒を「真に社会人として自立した人間」に育成することを目的として、平成28年度から平成30年度までの3年間の計画についてまとめたものです。

三つの目標の中で、目標Ⅰとして「次代を担う社会的に自立した人間の育成」を掲げ、具体化するための取組の方向「企業・NPO等との連携によるキャリア教育の推進」の一つに、自立支援教育プログラム事業が位置付けています。

この事業を進めていくキャリア教育を通して育成する力について、文部科学省では「基礎的・汎用的能力」として具体的に多くの能力を例示しています※1。

高校生が、このような能力を付けるとともに、実際の社会の姿を学び、より良い生き方を選択し行動していく意欲を持つことができるよう、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」(コラム)の会員団体である企業や大学・NPO等と学校との連携を進め、幅広いテーマでこの事業がより効果的な実施となるように、教育プログラムの充実を図っています。

多様な教育プログラム

自立支援教育プログラム事業には、3ページに掲載している例のような内容の教育プログラムが100以上あり、複数のプログラムを組み合わせ活用できるようになっています。

また、実施に当たっては事前に学校と支援団体とで打合せを行い、生徒の様子や活用する時期、前後の学習活動等に合わせ、教育プログラムを効果的に活用できるよう、内容や進行、使用する教材等をアレンジして実施しています。

この事業が4年目となり、学校のニーズに沿って支援団体が工夫し、内容を変えてきた教育プログラムも数多くあります※2。4ページから紹介していきます。



コラム 地域教育推進ネットワーク東京都協議会

「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」は、企業・大学・NPO等とのネットワークを作り、子供たちに、豊かで多様な体験学習活動が提供できるようにサポートし、活性化していく仕組みづくりを目指して、東京都教育委員会が平成17年8月に設置しました。現在、450を超える企業・大学・NPO等とのつながりへと広がっています。

地域教育推進ネットワーク東京都協議会の事業として、毎年、教育関係者と、小学生から高校生までを対象とした教育プログラムを提供する企業等の担当者などが情報交換する機会として、「教育支援コーディネーター・フォーラム」を開催しています。

今年度のフォーラムは、平成28年12月11日(日)に都庁で開催予定です。詳細については、ホームページ等でお知らせします。

詳細は で御覧ください

※1 キャリア教育

★キャリア教育とは
一人一人の社会的・職業自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達※を促す教育
※キャリア発達 社会の中で自分役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

★キャリア教育を通して育成することが期待される「基礎的・汎用的能力」
分野や職種に関わらず、社会的・職業的に自立するための必要な基礎と能力

<p>人間関係形成・社会形成能力</p> <p>例) 他者の個性を理解する力、他人に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等</p>	<p>自己理解・自己管理能力</p> <p>例) 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等</p>
<p>課題対応能力</p> <p>例) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等</p>	<p>キャリアプランニング能力</p> <p>例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択・行動と改善等</p>

★キャリア教育の実施に当たっては、社会や職業にかかわる様々な体験的な学習活動の機会を設け、それらの体験を通して、子供・若者に自己と社会の双方についての多様な気付きや発見を得させることが重要である。

平成23年1月 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」より

※2 「多様な教育プログラム」の例

働くことの意義や役割の理解

- 各教室に社会人が入り、生徒と質疑応答がしやすい形での講演を聞く。
- 体育館等の広い会場に、20名程度の社会人がコーナーを作り、生徒は3名の社会人から25分ずつ話を聞く。事前学習の時に、社会人のプロフィールを紹介し、興味のある講師を事前に選んでおく。
- 新入社員から、大学生活や仕事を選んだ理由、現在の仕事についての話を聞く。
- 社会人と生徒代表がパネラーとしてディスカッション、出された課題についてグループで話し合い、発表する。



将来設計

- お金について考える。ライフプランや将来の家計のシミュレーション、経済や金融の仕組み、株式の仕組み
- 労働法、賃金、保険等

学ぶことの意義を考える

- 大学生から、実際に使っているテキストや教材、時間割、写真等を使った大学生生活の紹介と将来の夢等について聞く。
- 大学の通常の講義に参加する。
- 就職内定者から、高校時代の過ごし方、大学の選び方等を聞く。
- 複数の専門学校が設置した職業別ブースで、職業人の指導の下、複数の職業を体験する。

コミュニケーション・スキルの向上

- ゲーム的な内容から、小グループでの発表までを複数回で取り組む。
- いくつかのゲームで身体を動かす、短い演劇のシーンを創作し、発表する。



課題対応能力の向上、自己の役割の理解

- 実在の企業から出されたミッションに、チームで取り組み、企画を提案する。
- 模擬会社を作り、企業活動を体験する。社会人が社外取締役としてサポートする。
- 学校や地域の課題を調べ、解決するための方策について話し合い、発表する。



学校外の体験活動に参加する

- 企業を訪問し、見学と課題解決プログラム等を体験する。
- 支援団体が実施する高校生対象のプログラムに参加する。

企業による新しいプログラム開発

日本アイ・ビー・エム株式会社

「日本アイ・ビー・エム株式会社」(以下「IBM」)では、社会貢献活動の重点分野の一つとして、教育支援活動を行っています。IBMには、創業以来、初代社長の言葉に始まった「良き企業市民たれ」という理念が根付いています。企業は社会の一員であり、公共の利益のために貢献すべきであるという精神に基づいたものです。

これまで、理科教育や数学教育、環境教育、グローバル人材育成、そしてキャリア教育の分野でプログラム提供をしてきましたが、今回新たに中高生向けに「NPO法人企業教育研究会」(以下「ACE」)とプログラムを開発しました。

プログラム名 「キミのアイデアで社会が変わる!?
—あらゆるモノがインターネットにつながる、IoTって?—」※

2コマ
連続

【プログラムの内容】

生徒たちがこれから生きていく社会では、ICTと社会課題の解決を結び付けることで、ICTの持つ可能性が広がります。このプログラムは、仮想キャラクターの「アイコ」との対話をしながら、IoTの概念やクラウドによる情報処理の基本(入力、処理、出力)を学び、簡単なプログラミングを体験するとともに、授業の後半ではチームで新しいサービスのアイデアを出し、IBMの社員が講評を行う授業となっています。



授業のプレゼンテーション画面より

【プログラムの流れ】

ACE講師、IBM社員と、画面に登場するアイコとの会話と演習で進めます。

- 1 IoTを利用した情報活用について 位置情報、加速度センサー、音量等の体験
- 2 IoTやクラウドによる情報処理の仕組みの説明
- 3 設計図に基づいた簡単なIoT活用アプリの開発体験
- 4 IoTを活用した社会課題解決の例の紹介
- 5 チームでIoTを使った新しいサービスのアイデアの検討/発表
- 6 IBM社員による具体的な取組の紹介と、高校生へのメッセージ



都立高校での授業風景

このプログラムは、1クラス程度の人数で実施するものですが、IBMが受け入れられている企業訪問の中でも、体験することが可能です。

この授業を体験することで、生徒たちが情報技術の発達により身近な生活や仕事に変化することを理解するとともに、自分たちが、将来社会を変えていくことができる可能性があることに気付くことも目的としています。

※IoT(Internet of Things)様々な物がインターネットに接続され、相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

年間計画に位置付けた活用

プログラムを実施する学年や時期は、学校によって異なります。年間計画、前後の学習、学校行事との関連等によって、各校で時期を工夫して実施しています。

A高校2年生

	1学期	夏季休業	2学期	3学期
ねらい	進路についての考えを掘り下げる。		進路希望を絞り込む。	進路実現へのあゆみを加速する。
学校行事等	ガイダンス 体育祭 面接週間	オープンキャンパス参加	面接週間 修学旅行 進路ガイダンス	進路希望別・勉強の仕方講座 卒業生合格体験談
プログラム	①就業意識啓発講座 ②ネット安全講座 ③社会人アドバイザー交流会(事前学習+交流会)		①チームコンセンサス・ワークショップ ②生き方の視野を広げる「若旅★授業」 ③演劇形式で学ぶ進路知識	①社会人基礎力ワークショップ

就職環境の現実を知る、様々な分野の仕事の実際を知る。

修学旅行でのグループ活動・グループ研究の前にコンセンサス・ワークショップを実施する。

旅や留学経験を講師から聞く「若旅★授業」(観光庁)でも自分の将来を考える。

卒業後までに身に付けておく力を確認、3年生の目標を作る。

コミュニケーション力の向上を目指して

NPO法人 ドラマケーション普及センター

3ページで紹介したキャリア教育を通して育成する能力には、「人間関係形成・社会形成能力」として、他者の個性を理解する力、コミュニケーションスキルも入っています。価値観の多様化が進む社会において、様々な他者を認めながら協働していく力が必要になっています。

また、社会人としてチームで仕事をするためにも必要な能力ですが、高校生にとって、将来について考える時に、コミュニケーション力を身に付けることが必要だと、すぐにはつながりません。

チームで課題解決に取り組むプログラムを行う前に、まず、クラス中でのコミュニケーションを良くするとともに、自分の意見を伝えること、与えられた課題についてチームで発表すること等をゲーム形式で取り組むプログラムの活用も、広がっています。

プログラム名 からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」2コマ連続 × 3回以上

- 1 コミュニケーションの必要性、社会が求める人材についての話
- 2 100種類以上のワークを組み合わせ、クラス全員や、2人～6人でのワークを繰り返す。このことで、以下のような効果があります。
 - ・自分の気持を伝える、相手の気持ちを受け取る。
 - ・発言、発表のワークを繰り返し行い、人前での発表の抵抗感を少なくする。
 - ・チームで課題に取り組む楽しさを体験する。
- 3 目的により、2分間スピーチを最終回に行います。事前打合せと、回ごとの生徒の様子により、内容を組み立てていきます。模擬面接を最後に実施するプログラムもあります。

都立高校で実施しているプログラムは、キャリア教育につながるよう、「楽しかった」だけで終わるのではなく、なぜ楽しかったのかなど、体験を通してコミュニケーションについて考え、生徒自身がこの体験をどのように理解したかを確認しながら進めます。

また、事前打合せで前後の学習内容を確認し、グループワークをする前の実施であれば、誰とでも話ができるような関係が作られる構成にしたり、プレゼンテーションをする前の実施ならば、口頭で発表する体験を増やすように構成したりしています。

この他にも、演劇的な手法や、ダンス等の表現活動を取り入れたコミュニケーション力向上を目指した他の団体のプログラムがあります。



B高校1年生

	1学期	夏季休業	2学期	3学期
ねらい	高校生活の目標を作る。		卒業後を見据えて、選択科目を決定する。	進路の幅を広げる。
学校行事等	体育祭 進路説明会、進路希望調査	オープンキャンパス参加	夏季体験のまとめ 選択科目説明会 文化祭	卒業生講話
プログラム	①手帳の使い方 ②コミュニケーションワークショップ ③オープンキャンパス事前学習		①大学生による大学生活紹介 ②職業人インタビューワークショップ	①青年海外協隊Lifeストーリー

クラスの関係を作り、体育祭に向かう。

夏季のオープンキャンパスは事前学習と事後のまとめを行ない、大学のイメージができた後に、大学生から詳しく話を聞く。